



お客様のライフスタイルを住宅建築に

水清建設／ミズセイホーム

長期優良住宅認定の 「築百年再生プロジェクト」

「多くの世代にわたって住み続ける家を」と、これまで使っていた古材を引き続き活かした家を建てる「築百年再生プロジェクト」を行っている「水清建設」。

国土交通省の長期優良住宅制度の推進を図り、耐震性など、7項目の基準を満たしながら、古材を含めて古民家を再生する、このプロジェクト。家庭の歴史を受け継ぎ、家を建て直すだけでなく、長期優良住宅制度の認定を受けた家ということで、県内でも数少ない取り組みとなっている。

環境面への配慮もあり、古民家で長年、使っていた良質な木材を継続して使い、傷んだ部分は新しい部材を使うというかたちの家づくり。新しく使う部材には、森林組合などと提携して県産材を活用。木の優しさ、柔らかさを家づくりに反映させている。

適正価格を実現した 県産材を家づくりに活かす

木の家には、利点がたくさんある。木目や色合いは歳月とともに風合いを醸し出すだけでなく、鉄やコンクリートに比べて熱伝導率が低いため、断熱性に優れている。夏は涼しく、冬は暖かい家を実現できるのだ。

これまで木材については、輸入材は安くて国産材は高いというイメージがあったが、最近では輸入材が値上がり傾向にあるという。

水清建設は、岩手中央森林組合と葛巻林業との連携により、一般的な木材の流通経路から、数々の段階をカットすることで、適正価格による県産材の提供を可能にしている。

地元で育った木は、その風土に適していることから、家づくりに適した材料となる。地産地消の家づくりを目指す人に、県産材を使った住宅の良さを知って欲しい。



水清建設
代表取締役社長

水本 孝

今回の「築百年再生プロジェクト」は、古民家に住む施主様とのやりとりで実現しました。当社は、施主様の満足度が高い家づくりがモットー。古民家に使用していた古材を活かし、新たに県産材を利用したいというご希望に合わせて、ふんだんに木を使った家造ることになりました。既存のメーカーには、適正価格とは言いにくい価格の家づくりを提案するところもあり、そのイメージから、家づくりについて誤解している人も多い昨今ですから、予算やローンなどを含めた資金計画についてもトータルにご提案しています。